

特集

男と女がともにきらめく

男女共同参画社会の実現をめざして



▶「共にがんばりましょう」とメッセージの交換後、握手を交わす藤田町長と大泉副知事

「男は仕事、女は家庭」という言葉をよく耳にします。皆さんはこのような考え方をどう思いますか。

例えば共働きの家庭で、男性は仕事だけをし、育児や介護はもっぱら女性任せということはありませんか。また、男性が家事をする場合でも、「本来女性がやるべき仕事を手伝ってやっているのだ」という意識はないでしょうか。

国では去る六月、男女共同参画基本法が策定され、また県でも「やまぐち男女共同参画プラン」を作成するなど男女共同参画社会の推進が図られています。

油谷町においても重要な課題と位置づけ、現在策定を進めている「第三次油谷町総合計画」において総合的に諸施策を推進していく予定です。

「男は仕事、女は家庭」は、昔の話！男性も女性も一人ひとりの人権が尊重され、男女が社会の対等なパートナーとしてあらゆる分野に参画し、共に発展を支え合い、個性と能力が発揮でき、生き生きと輝いて暮らせる社会づくりが現在求められています。



男の本音！

わが家の生計は、ほぼ私の収入で賄われているが、家庭内のすべての決定権は妻にある。それで平和が保たれているのだから、おとうさんに異存はない。が、まあ、ひとこと言いたいことがないわけではない。例えば「この部屋のカーテン、青と黄色のどつちがいい？」と聞かれる。「青が好きだ」と答えたのに、翌日帰宅してみると鮮やかな黄色のカーテンが目飛び込んでくる。当然（おれの意見はどうなったんだ」と反発し、緊張は高まる。しかし、決して口にはしない。お父さんたるもの、「やっぱり、黄糸がよかつたね」という鷹揚さをもたねばならないのだ。

うちには男女、いや生まれた順番では「女男」三人の子どもがあるが、「姉・妹・弟」という上下関係はつけずに育てられた。これも妻の信念である。子どもたちはお互いの名前呼びあい、小学生の息子も短大生の娘を名前で呼び捨てにする。「おねえちゃん」はいないのだ。最近では、婚外子との関係から、住民票の続柄を「子」と書くようになったが、なんの、わが家では二十年前からみな「子」である。妻はエライ。時には「お前は長男だから」と息子と長男同士の連帯を深めたい時があるが、「封建主義はよくない」とお父さんは自重している。

さらに、妻の指導は食後の片付けにも及ぶ。食器は各自が流しに持っていくのがわが家の憲法第一条である。ただし、お父さんだけは一家の「あ